

単元名 音楽の旅

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解するとともに、呼吸および発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) いろいろな国の音楽の様々な旋律や声、楽器の音色、音の重なり、拍の有無を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、演奏のよさを見出して聴いたりすることができる。
- (3) 我が国や諸外国に伝わる音楽や表現、それらと人々の暮らしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070203_001

【教材名】 子もり歌（歌唱 共通教材） 会津磐梯山（鑑賞） 音戸の舟歌（鑑賞） 日本の民よう（鑑賞）
こきりこ節（歌唱） 谷茶前（音楽づくり 歌唱） 世界の声の音楽（鑑賞） 世界の楽器
のひびき（鑑賞） (P. 34～P. 41)

【準備等】 範唱CD、鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 子もり歌（共）を鑑賞したり、日本の音階による特徴的な曲想を感じ取ったりする。</p> <p>★わたしたちの国に伝わる歌や声の表現を楽しもう</p> <p>○日本の子守歌の節回しや、特徴的な曲想を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二種類の「子もり歌」の範唱を聴き、曲想や節回しの特徴を感じ取る。 ・♭の記号の意味を理解する。 ・「子もり歌」を♭を付けた節と付けない節で歌い比べ旋律の感じの違いについて交流する。 <p>○節回しや旋律の特長を生かし、表情豊かに歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容について話し合う。 ・どんな速さや感じで歌うとよいか意見を出し合う。 ・二つの旋律の違いに気を付けながら、それぞれ気持ちを込めて歌う。 <p>○民謡を歌う声の出し方や節回し、拍に注目して、「会津磐梯山」と「音戸の舟歌」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いて、声の出し方、節回し、リズムなど、気付いたことを話し合う。 ・それぞれの曲を手拍子を打って拍を捉えながら聴き、拍を感じる歌と拍にとらわれない歌があることに気付く <p>○身近にある商売の声などを、声の出し方や節回しに注意して聴いたり、歌ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商売の声や、相撲の呼び出しなどを、声の出し方や節回しの面白さを感じ取りながら聴く。 ・まねをして歌ったり、教科書の図譜を参考に節回しを横線で表したりして、拍にとらわれない歌い方に気付く <p>3～4 日本各地の民謡を鑑賞し、旋律の特徴を感じ取って曲想に合った表現の仕方を工夫する。</p> <p>★せんりつの感じを生かして民謡を歌おう</p> <p>○民謡を聴いて、声の歌い方の特徴、使われている楽器の音色、リズムの特徴などが生み出すよさや面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こきりこ節」「谷茶前」など、いくつかの民謡を聴き、歌い方や伴奏の楽器などの特徴を感じ取る。 ・気付いたこと、感じたことを学習カードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・♭の有無による二種類の旋律の違いを感じ取れるよう、何回か聴き比べたり、歌い比べたりする。楽譜を読み込むより、二種類の歌い方の旋律を覚えてしまっただけで歌う方がよい。 ・日頃聴いたり歌ったりしている旋律はどちらか、意見を出し合わせる。正解はないので、統一する必要はない。生活の中で歌われていることが分かればよい。 <p>【共通事項】 旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんを寝かしつけるためにはどんな歌い方がよいか考えさせる。 <p>【共通事項】 音色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの歌い方や節回し、音の動きの特徴半音を含む五音音階の独特の響きなどを味わわせる。 <p>【評】 曲想と音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 36, 37「日本の民ようをたずねて」の見開きを利用し、地域に伝わる民謡に言及して学習に入る。（導入として、「日本の民ようをたずねて」の中から選んで聴いたり、自分たちの地域に伝わる民謡を取り上げ、聴き比べたりしてもよい。） ・日本各地の民謡について、拍を感じる歌と拍にとらわれない歌、という観点から、いくつか聴き比べてもよい。 <p>【共通事項】 拍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏している様子の分かる資料や、使われている楽器を提示するとよい。映像があればなおよい。 ・「石焼き芋屋」「相撲の呼び出し」以外にも身近に特徴のある呼びかけなどを見つけて発表させたり、実際に声に出して表現させたりするとよい。 <p>【評】 日本の音楽の旋律や声、拍の有無などを聴き取り、聴き取ったことを楽しみながら表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の民ようをたずねて」の見開きから選曲したり、地域に伝わる民謡を取り上げたりしてもよい。 ・演奏している様子や使われている楽器が分かる写真を提示する。映像や実物があればなお理解しやすい。 ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 ・民謡はいろいろな旋律があるため、鑑賞音源では必ずしも教科書楽譜の旋律で歌っていないが、歌手の発声やこぶしなどに注意して聴

- 「こきりこ節」を、旋律の感じを生かして、曲想に合った表現の仕方を工夫しながら歌う。
 - ・「こきりこ節」を再度鑑賞し、歌い方や旋律の特徴を感じ取る。
 - ・歌詞の意味を知り、声の出し方や旋律の動きに気を付けて歌う。
 - ・音頭一同形式で歌う。
- 「こきりこ節」を楽器の伴奏を加えて歌う。
 - ・伴奏の各リズムを全員で手拍子などで打ちながら歌って確認する。
 - ・各パートの担当を決め、楽器を選ぶ。
 - ・伴奏のリズムを楽器で練習する。
 - ・楽器を交代しながら歌い合わせる。
 - ・歌は音頭一同形式で歌い、伴奏と合わせる。

5～6 世界の音楽の鑑賞や視聴を通して、それぞれのよさやおもしろさを味わう。

- ★世界のいろいろな声の表現や楽器のひびきを楽しもう
- 世界のいろいろな国の音楽を鑑賞し、それぞれの音楽や表現のよさや面白さを味わう。
 - ・楽器の音色や音の重なり方などの特徴、楽器の素材や発音原理（吹く・打つなど）の類似点や違いなどに気を付けて「世界の楽器のひびき」を鑑賞する。
 - ・声や歌い方、音の重なり方などの特徴、類似点や違いなどに気を付けて、「世界の声の音楽」を鑑賞する。
- 声「ヨーデル」
「ホーミー」
「ケチャ」
「ゴスペル」
 - ・それぞれの特徴や、よさや面白さについて、学習カードに記入し、話し合う。
- 世界のいろいろな音楽の中から一つ選んで、よさや面白さについて発表する。
 - ・楽器の音色や音の重なり方などの特徴、楽器の素材や発音原理（吹く・打つなど）の類似点や違いなどに気を付けて鑑賞する。
- 楽器「バグパイプ」（管楽器）
「フォルクローレ」（管、弦、打楽器）
「グリオの語りとコラの演奏」（弦楽器と声）
「メヘテルハーネ」（管、弦、打楽器、コーラスが加わることもある）
 - ・それぞれの特徴や、よさや面白さについて、学習カードに記入し、話し合う。
 - ・声や楽器の中から一つ選んで、よさや面白さについて発表したり、紹介文を書いたりする。

かせる。

- ・「歌い手」は2～3人程度でも1人でもよいが、1人ずつ歌えればなおよい。

【共通事項】旋律 音色

【評】呼吸や発音、音色や響きに気を付けて「こきりこ節」を歌ったり演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。

- ・木でできた楽器（ウッドブロックなど）、金属でできた楽器（カウベルなど）や皮を張った楽器（太鼓など）、細かい音の出る木の楽器（ギロなど）の中から、「こきりこ節」の演奏で用いられている和楽器の音を参考にして選びたい。曲の雰囲気大切に表現を工夫させる。

【評】「こきりこ節」から聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように演奏したり歌ったりするか工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する

- ・教科書の地図を参照し、それぞれの国や地域の場所を確認しながら聴く。

【共通事項】音色 音の重なり

- ・音楽はいくつか選択して鑑賞してもよい。また、別の国の音楽を増やして鑑賞したり、第1次で鑑賞した日本の民謡の歌声と比較してもよい。
- ・映像が入手できるものは活用し、歌っている様子や使っている楽器が分かるようにする。
- 【評】諸外国の伝統的な音楽を聴き、その特徴やよさや面白さについて話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教科書の地図を参照し、それぞれの国や地域の場所を確認しながら聴く。
- ・音楽はいくつか選択して鑑賞してもよい。また、別の国の楽器を増やして鑑賞したり、第2次で鑑賞した日本の民謡の楽器と比較したりするのもよい。
- ・映像が入手できるものは活用し、楽器を演奏している様子が分かるようにする。
- ・発表時に必要な資料を準備したり、提示したりできるようにする。また、選んだ声や音楽について、どのような機会に演奏されるのか背景を調べたりすることも考えられる。
- ・「まなびリンク」の画像を活用してもよい。

【評】いろいろな国の音楽のさまざまな旋律や声、楽器の音色、音の重なりから聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】